

Title	質疑應答
Author(s)	
Citation	地球 (1925), 3(2): 324-328
Issue Date	1925-02-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/182816
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

行日記である。而して這は他日公にされるべき北東亞細亞の論文の先驅をなすものとの事である、従つて標題を見て、これを人類學の本ださ合點してはいけない、人類學上でなくて、人類學及人類學者の見た北東亞細亞を解釋すべきである、東部シベリア、イルクルツク、チタ、ハイラル、チチハル、ハルビン、オノン河、黒龍江下航ハバロフスク、ニコラエフスク等の地誌としてこれを見るさいかに多くの學ぶべき事實を本書によつて得ることだらう、從來我國の地理學者の机上に我國の文化と尤も密接な關係のある、北東アジア、又は東南アジア、南洋諸島の地誌が提供されたこと極めて喜々たりである、中にもこのシベリアから樺太滿洲にかけての地理的事情は餘程少い、近時南滿洲鐵道會社から翻譯さか調査報告類となつて出版されたものが多くあるが、十分にこれが行き渡らない狀況であるから、予は島居博士の如き旅行家のこの種の著述を甚しく歡迎するのである、菊版ポイント四十六字詰十四行五百頁の少からぬ冊子であるから、たゞの旅行記のやうにすらくと讀過し得ない、むしろ肩の凝る方の本であるが、日本にこの種の旅行記を好讀する讀書子が増加せんことを祈つてやまぬ。妄評多謝(藤田)

○朝鮮部落調査報告第一冊 朝鮮總督府

本書は囑託小田通敏君の調査になつた朝鮮火田民及來住支那人の狀態の報告である、例によつて惜氣もなく寫眞圖版の多いもので其の數の多い寫眞を見る丈けでも啓發さるゝ所の多い報告である、ここに漂動する火田民の生活の不安定に關して説明

の丁寧なのを多とする、つぎに來住の支那人がいかに有力なる商業家であり蔬菜農業家であるかさいふことを事實について細説してある、勸勉にしてしかも露欲な支那勞働者の侵入に對しては單に朝鮮のみの問題でなく、邦人が滿蒙に發展せんとするに就ても其足もたを見なくてはならない現狀に對し、本書の如きは有力なる參考を提供するものといふべきである。地圖の類も鮮明に出來てゐる、好著と云ふべきである。(藤田)

○地理教材研究第五輯 目黒書店大正十三年十一月發行

本輯には石井氏の奈良盆地の人口分布に就きて、辻村氏の四國北部の瞥見、西鶴氏の大野ヶ原カルスト、津川氏の大河津分水工事等をはじめ愛知縣の粘土工業、靜岡縣の茶柑橘等、趣味の多い報告に富んでゐる、各地方の地理學的報告の輯を重ねるに従つて愈増加することが本書の特色として他に誇るべき點であらう。會員名簿を見ると、總計で百四十八名、それゝゝ大家もあり中等教員の方々も多いことである、予は地方のこれら多數熱心家の更により多く輩出せんことを望むものである。(藤田)

質疑應答

問 山西省の自然地理を説明せよ

答 山西省と云ふ所は十八省中の北部で、直隸省の西、大行山脈を界にし、陝西省の東で黄河が其境界となり、南も瀋陽から東する黄河によりて、大體河南省との境をつくつて、自然の境

界が明かな一區域で古の冀州戰國時代の趙國であるが、この趙の武靈王といふ英雄が北方の胡族を擊退して所謂内蒙古の陰山までを支配し陰山の頂上に長城を築いて、夷狄と中國との境界を決定したのであつた、秦の一統の時にもこの武靈王の跡に従つて萬里長城を作つたので北方の限界が出来たものであるが、他の三方と違つて北方はかやうに人爲のものであるから其後匈奴又は東胡、蒙古人といつたやうな強悍な北方人によつて秦又は趙の長城以内を奪取せられ漢人は陰山の南から引き上げればならぬ様になつた。最近世に元が支那を統一するやこの方面は全く蒙古人の土地になつた、そこで明代になつて長城外邊なるものを改修して、蒙古人と漢人との境界にした、でこれが山西省の北の境になつてゐる、併し長城外邊から北の内蒙古は今日では、熱河、察哈爾、綏遠の三特別區域が設けられ、光緒以來この方面に漢人の移住するものが増加し、蒙古人は陰山以北に退却するやうになつたので何れも漢人の支配地になつてゐるから支那省別全誌の如きは、この察哈爾、綏遠の一部迄が山西省に入つてゐるとして、其一五頁に

本省へ西へ黄河ヲ隔テテ鄂爾多斯及陝西に對シ北へ長城ヲ越エテ蒙古草原地帯ニ連ル

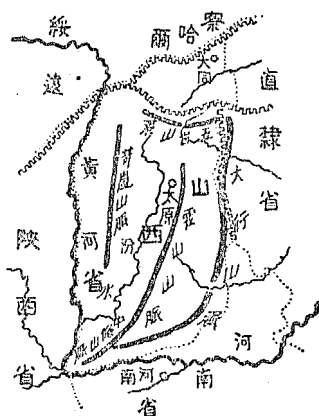
と記し其山嶽の主なるものに北部に陰山々系があるを記述してゐるが之は少し過つてゐる、長城には内邊外邊の二つがあつて北緯三十九度二十分の邊に、直隸との界にある五嶽の一なる恒山より西の方へ五臺山、雁門山といふやうな名山を連れた分水界（五臺山系）の上に長城内邊が蜿蜒として連り雁門關と稱する關

門を設けてゐるがこの雁門の外に北緯四十度半のあたりに殺虎口、得勝口、張家口、獨石口、などと稱する險要を控へた長城外邊がある、つまり山西及直隸では長城が二重の城壁となつてゐるのである、でこの外邊から南を山西省とする、故に殺虎口から西に黄河に出来る綏遠特別區域であり、得勝口から北に出来る察哈爾で、いづれも古の内蒙古の草原地、今日では支那人の農耕地があつて、そのさきに陰山山系が東西に連互してゐるのである、故にこの問題を考ふるに當つてはまづ山西省の區域境界を明にしてそれから考へねばなりません。

さてかやうに山西省を北は長城外邊、東は太行山脈、西及南は黄河を限りとして考へて見ると、長城内邊の通つてゐる五臺山系と稱する太古代片麻岩の大山脈が東西に亘り分水界となつて省を南北の二部に分つてゐる。即ち北は大同府の盆地で、桑乾河の流域である、この河は東流して北京平地を流るゝ永定河の上流である。南の盆地は所謂太原の盆地で黄河の一大支流たる汾水の流域である、汾水の東に太行山脈があるがこの太行山脈を浸蝕して有名な滹沱河とか漳水とか云ふ河が東流してゐるがこの東流諸水と汾水との間に細い霍山山脈があり、其西の汾水と黄河との間には、崞嵐山脈があつて南部盆地は二段に切れてゐるが、しかし地質上から之を見るに全く理想的の盆地である。

一概に山西を盆地と云ふよりは一の高臺と見て一千二百米内外の高原と云ふのが當つてはゐるが地質圖を見ると盆地であるこの盆地は五臺山系から北緯三十四度河南省までの間、東經百十度から百十四度の間に廣がり、周圍に下部古生層寒武利亜、

奥陶紀の古い時代の岩石が出て其上に直ちに石炭紀や二疊紀の砂岩質岩が出て又其上に三疊侏羅が出て、中部古生代（シリリア、デボン）を欠き其上は黄土の被ふ所である、即山西臺地は奥



陶紀の末から地盤隆起し、志留利亞、泥盆二紀の間は大陸をなし、石炭紀と二疊紀には再び沈んで淺海をなし、三疊紀以後又々地變を

生じたものであるらしい、即ち石炭紀時代に海没をうけた一の盆地と稱すべきである、でこの盆地の東境をなす太行山脈は山西を東から南へめぐる邊縁で高度千二百米内外主幹をなすものは寒武利亞、奥陶紀の石灰岩であるが、これに對立してゐる崑崙山脈も又廣大な石灰岩、ドロマイトを露出し、寒武、奥陶紀に屬するものを根幹としてゐる、而していづれもこの奥陶石灰岩の内部又は外部に石灰や鐵を埋藏してゐる、山西の石灰と稱するものは實にこの過古の盆地に出來たもので、湯陰安陽武安磁縣邯鄲内邱臨城元氏井徑の各炭田は實に太行の東側にあるもの、黎城遼縣和順、昔陽、平定の各炭田は其の西側にうつるものであ

第三卷

第二號

三七

七四

る、崑崙山脈の東にも同様に太原交城文水汾陽の各炭田があり、石樓鄉寧の二炭田は其西側に出てゐる、轉じて漳水と汾水との間の分水をなせる中央の霍山を見るに高二千五百米に達して始原代の片麻岩が山骨を露はしてゐる、蓋し第三紀の一大地變に生じた崑崙大山系の皺曲の一つで南して中條山脈から華山秦嶺の一大山系に連接する者であるらしい、雁門關のある五臺山系も同様に陰山山系に並行した一大皺曲の結果から出來たものであるが其北部の大同盆地は南と同様に石炭紀の盆地で、に有名な大同の炭坑があり京綏鐵道の燃料になつてゐる、井徑、平定の炭田も亦この地に鐵道をつくる原因となつたもので京漢線の正定から太原に達する正太線はこれによつてつくられたのである、鐵道開通以前には大同から太原までは雁門の險があつて不便ではあるが桑乾河及滹沱河の流域を利用し、太原から南は汾水によつて西安の方へ至便な交通路を開いたものであつた、しかしその中で汾水の下流に於て舟楫の利あるのみであるが、其流域は灌溉の利によつて穀物等富饒の地である、第三紀以後黄土の風積作用によつて平野は何所もすべて黄土の被覆地であるが、今日も過去と同様に大陸性の乾燥な土地である、長城外邊以外は氣温が低く冬季酷寒であるが太原附近では華氏七八度以下に下ることが稀である、報告によると太原では最高九十五度冬季最下十度で晝夜の差は最大二十度である、大同では夏季平均八十五度であるが冬は中々寒く十一月以後二月中旬までは河水氷結する、太原では六七月が雨期で、大同では四五月が雨期

であるが、いづれも少量である、冬は西北風、夏は東南風が卓越するが乾燥の地であるから黄塵天を蔽ふことが珍らしくない。

(藤田)

間 西印度諸島の成因

答 西印度諸島はメキシコ湾外よりベネズエラ海岸に至る間(北緯二七度同一〇度)、カリア海と大西洋との防波堤の如き形をなして點在する諸島である。

諸島は中央アメリカと密接なる關係を有し、主としてカリブ海の陥没によりて生成せるもので、是等は 帶の構造上次に分けてゐる。

一、内帶 (Lesser Antilles Is. の大部)

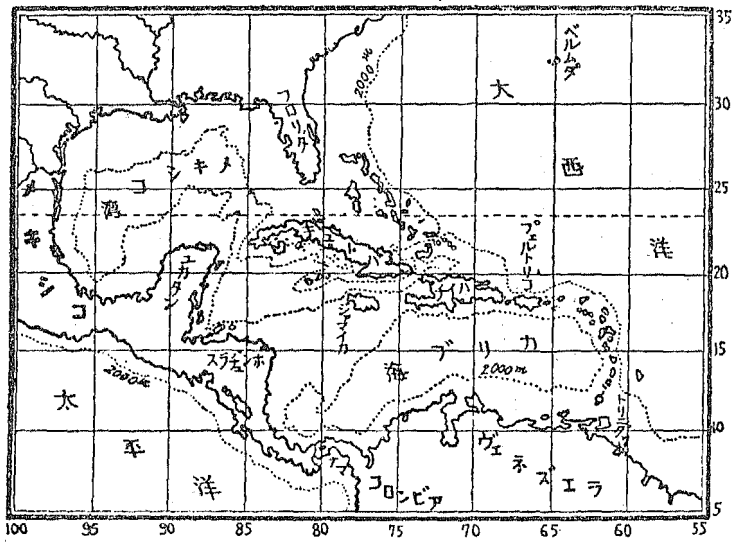
Saba, S. Eustatius, St. Christoph, Nevis, Redonda, Montserrat, Guadeloupe の西半, Dominica, Martinique, S. Lucia, St. Vincent, Grenadines, Grenada. の諸島を含み、火山列島なり、大小の火山に富むが、殊にマルチニク島のモンターニュ・ペレー Montagne Pelée は一九〇二年の大爆發を以て知らる。

二、外帶 (Greater Antilles Is. の大部)

ユカタン半島の東方 Cuba 島より Pinos, Haiti, Puerto Rico, Virgin Is., Anguilla, S. Barthelomius, Antigua, Guadeloupe の東半, Barbados の一部に連續する諸島、並に、ホンデュラスの東北 Jamaica よりハイチ島の南を過ぎポर्टリコ島に及ぶ諸島の二列がある。これ等の列島は水成岩を主とし、南米ベネズエラ海岸の Trinidad 島に連續するものである。

三、珊瑚礁 (Bahama Is. の大部)

バハマ諸島は第三紀以後の新しき生成にかゝる岩礁・淺瀬・



珊瑚礁よりなり、極めて低平なる小嶼である。三千餘の小嶼ありと雖も住民あるは僅に二十に過ぎず。この低平なる地はフロリダ半島、ユカタン半島の低地と同様な構成にかゝるものと考へ得る。

今、西印度諸島附近の千尋等深線圖を見るときは諸島の成因並に中央アメリカとの關係をよく了解することが出来る。

Steess: Das Antlitz der Erde. I. Band, 1908.

Müll: International Geography, 1916.

問 大環圖法に依る地圖上に於て二地點間の最短距離なることの説明(埼玉ささ生)

答 球面上二點間の最短距離は二點を通る大圓であること明である。大環圖法にては總ての地球の大圓は直線として示される。故に間の如くである。何故大環圖法で大圓が直線になるかといふと、幾何の知識があれば何でもない。大圓上の任意の二點と地球の中心とを含む平面をして描かんとする地圖の爲假想した地球へ接する平面と交らしめる。球面上の大圓は此平面上にあり。投影せんとする選びたる先の二點をよぎる放射線も又此平面上にあり。然らば此平面と假設接觸平面の交りは大環圖法にて大圓をあらはす。二平面の交りは直線である。(J・M)

問 地球儀上にて最短距離を測る方法。
答 前問に答へた文字を文章の上で考へるに餘程諒解しにくい。地球儀があることを理解しやすい、但しこの地球儀は周圍に地平の環のついてゐるものでなくてはならぬ、略式の本脚

の地球儀でも出来ませんが、三本脚の本式の地球儀は中の球が自由に廻りますから、測定せんとする二地點をその緯度環の兩側に等距離に持つてきてその上で球を緯度環にそつて地平環の平面に持つてくると、それが兩地點の最短距離です、それをもとに戻して見ると、其の最短距離は大圓ですから孤線なしてゐることがよくわかります、一本脚の略式地球儀ならば、其の球の半徑にひさしき半圓をボール紙の上にきりぬきて、地平環をつくつて考へて見なさい。(M・F)

編輯便り

□我等の「地球」誌は第二歳の春を迎へて、自分ながら其の發育のよいのを欣んで居ります、然し此の年頃は四圍の環境に左右される事の最も著しい危い時期であること心配されます。學團員各位がこの意見を可愛がられて、前途を光輝ある生涯に導く様御指導あらんことを切望します。
□舊臘第一回講習會中、地方の學團員方で學團支部を置きたいと云ふ希望がありました、それで先づ第一に岡山地理談話會が我支部となる運びになり、二月一日には其の發會式を舉げることにになりました。此の機會に支部の意義を述べて見て、今後支部を地方に置かれんとする方々の御參考に供します。
□一支部員は本則として學團員たるべきこと、二、然し支部はそれ自身獨立した團體であるから支部員中に學團員でないものがあつても差支へない。三、支部は講習會等の爲めに講師の選定を學團へ依頼し得るのは勿論であるが、斯る支部の發起する事柄に關しては學團自身は與らない。
四、學團員でない支部員は准學團員と認める、然し學團の開催する會、學團の發行する圖書等に就ては支部員中の學團員のみ特別の便宜があつて、准學團員に對しては學團は學團員の有する特別の便宜を與へない。